

4 段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸ヶ丘ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。」 ① 少人数の利点を生かした教育実践を通して、学力向上を図る。 ② 子どもの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して、生きる力の育成を図る。
--------------	---

○：成果 ●：課題、改善対策

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果考察及び改善・対策（自己評価）	自己 評価	関係者 評価	結果の考察及び改善対策（関係者記入）
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 複式解消によるきめ細かな指導の充実と「わかる・できる授業」づくりと児童の特性把握	1 について ○ 複式を解消できるので、授業の内容をしっかり押さえる環境や体制ができています。 ○ 児童が少ないので、実態に応じた細やかな指導ができています。（実物や具体物を揃えて使うことができます。） ○ ICT 活用に関しては、各学年で実態に合わせて進めることができています。 ● ICT 活用、タブレット PC の活用能力育成の為に計画的に研修を行っていく必要がある。	3	3	1 について ● タブレット PC の活用能力の育成を進めて頂き、児童の指導内容の定着がより上がることを期待します。
	2 小中一貫教育（3校合同研究）の推進と一人1研究授業を通じた授業改善	2 について ○ 主題研や3校合同研究を通して、国語科の読解力、表現力をつけるという意識は、高まってきている。 ○ 一人1研究授業を行い授業改善に努めており、児童の学力向上にもつなげている。			3 について ● 読書については、冊数は申し分ないが、読む本の内容も考えて欲しい。
	3 読書活動の推進	3 について ○ 西小林中学校の卒業生による読み聞かせ、地域の方の読み聞かせなど本に親しむ環境ができています。 ○ 図書貸し出し100冊以上2名、80冊以上5名と読書に関する意識が高まっている。			4 について ● メディア利用の教育は、大人も子どもも大事だと思う。依存症にならない教育は、これからも続くと思うので、学校・家庭と連携して取り組んで欲しい。
	4 家庭学習の充実	4 について ● 家庭学習振り返り週間の結果を通して、メディアの時間が長かったり、学習の時間が短かったりという家庭もあった。懇談会や個人面談などで家庭学習の大切さを啓発していくことが大事だと考える。			
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 【手段】 1 西小林中校区の小中一貫教育のきまり定着及び集団規律の徹底	1 について ○ 日々の指導や全校集会等で学習や生活のきまりを話すことで、規範意識の向上につながっている。 ● あいさつがよくなってきているように感じるが、引き続き指導していきたい。	3	3	5 について ○ 幸ヶ丘太鼓は、人数の少ない中一人で二役、三役こなしてがんばっていると思う。聞く側も励みになります。 ○ 少ない人数でがんばっている幸ヶ丘太鼓は、毎回感動させられます。
	2 道徳教育の充実	2 について ○ 6月の参観日で人権に関する授業を設定したり、PTA さかなのつかみ取り活動等を通して命について考えさせたり豊かな心の醸成に努めている。			
	3 キャリア教育の充実	3 について ● 保護者の方々にも協力を得ながらキャリアパスポートを整理した。今年度からの取組なので、キャリアパスポートの活用についても更に進めていきたい。			
	4 朝のボランティア活動の活性化	4 について ○ 朝のボランティアの参加者が増えてきつつある。また、低学年も毎日継続しているので良くなっている。 ○ 朝のボランティア活動に毎日出てくる児童がいる。			
	5 「幸ヶ丘太鼓」の取組及び作品応募を通じた自信とやる気と達成感の涵養	5 について ○ 幸ヶ丘太鼓については、講師の協力もあり、児童数は減っているが発表できる形までもっていくことができた。 ○ 運動会、西諸音楽大会、県の太鼓フェスティバルなど大きな舞台で太鼓発表をすることで、声等も大きくなってきた。			
	6 教育相談の充実	6 について ○ 教育相談や教師同士で情報交換を行い、児童への声かけに生かすことができた。（目配り、心配りを心がけるようにする。） ○ すこやか委員会で児童の様子を共通理解することができ、児童の様子の変化を見守る体制ができています。			

体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 【手段】 1 一人一人に応じた 体力向上の推進 2 外遊びの推奨 3 「早寝・早起き・朝 ごはん」・ノーメ ディアデーの奨励と基 本的な生活習慣の定 着 4 肥満率の解消 5 全員登校年間 150 日以上 6 むし歯治療率の向 上	1について ● 体力向上に関する取組がまだ少ないので、今後、課題解決の取組を考えて実施していきたい。 2について ● 外遊びもしているが、活発に運動させるための手立てを考えていかないといけない。 3について ● 早寝、ノーメディアについては、今後も保護者と協力して改善していく必要がある。 4について ○ 肥満傾向児童への保健指導、各種治療の啓発など養護教諭と学級担任とで連携して進めることができた。 ○ 児童会活動でみんなで遊ぶ日が1つの契機となり、外遊びも増えている様子。肥満対象児童への「体重減」という結果にもつながっていると思われる。 ● 生活リズム週間の記録では、欠食率30%と望ましくない結果も出た。家族単位での生活変容が求められるため、難しい面もある。 5について ○ 欠席が非常に少なく、全体としてほぼ無欠席でありよいと思う。教育活動が計画的に進んでいる。 (1/20 150日達成) 6について ○ 現在むし歯の治療率は、66.6%である。今後も引き続き家庭へ啓発していく。	3	3	1について ● 体力低下は、児童が少ないので競争力もなく高学年は、低学年に合わせているので少し力をおさえたりする場面があるので、その辺から低下が見られるのではないかなと思う。同学年と競い合わせたい。		
	食 育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 【手段】 1 給食指導の充実 2 体験活動と関連さ せた指導の充実 3 弁当の日の実施 4 家庭との連携	1について ○ 食事のマナーについては、大変よくできている。給食の指導も工夫しながら指導が進められている。 ○ 養護教諭を中心に個に応じた給食指導を行うことができていた。 ○ 1人1人の適量を考えた配膳を行った結果、時間内に食べることができるようになってきた。 ○ 残食0の日も増えてきている。 2について ● サツマイモ栽培や梅ちぎり活動など子ども達の表情もよく体験活動が充実している。次年度は、常時活動でサツマイモまわりの草取り等関わらせていきたい。 3について ○ 弁当の日に関しては、3校合同実施ということもあり、食育だよりも併わせて発信してあり、地域を上げた取組になっている。 4について ○ 学校保健委員会は、当事者の話を通して LGBTQ について理解を促した。多様性についてを考える機会となった。 ● 生活リズム週間を通して、保護者と話す機会も増えてきた。効果的な時間の使い方を促していきたい。	3	3	4について ● 朝食をとらない児童がいるということが少し気になりました。	
		そ の 他	重点目標： 保護者や地域から信頼 される安全・安心な学 校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及 び幼保小連携の推進 2 学校運営協議会の 推進 3 防災教育の推進 4 信頼される教職員 の育成	1について ○ かおる幼稚園での園児との交流や職場体験も生活科やこすもす科での体験を伴う学習として意義あるものとなっている。 2について ● 計画した3回を実施することができた。2回目は、時期が遅れたので、早めに計画の連絡をする必要がある。 3について ○ 関係機関に協力してもらい自然災害への準備や等の大切さが実感できる取組ができている。 ● 噴火災害対応では、二次避難場所の南地区体育館で保護者への引き渡し訓練が実施できた。よりスムーズにできるように保護者と共通理解を図っていきたい。 4について ○ コンプライアンス研修では、動画等も活用し、実例をあげながら分かりやすい研修が行われている。	3	3	3について ● 防災教育について、地区民と合同、もしくは参加ということもあっていいのかなと思いました。
			次年度の方向性について校長所見	○ 今年度もコロナ禍での教育活動であったが、学校関係者による評価では概ね良い評価をいただいた。次年度も今年度の教育活動の反省を活かした活動に取り組むとともに、以下の取組に努めたい。 ・【知育】：家庭学習の充実を図るとともに、タブレット PC の家庭での活用について検討、実施する。また、読書本の内容を検討したり、読ませたい本の紹介をしたりして、読書活動を活性化する。 ・【徳育】：児童の発表の機会（太鼓、作品投稿など）を更に増やし、自信をもたせる。 ・【体育】：児童の体力向上や健康への意識を高める。 ・【食育】：家庭と連携し、食への関心や感謝の気持ちを高める。 ・【その他】：地域と連携した防災訓練を計画し、地域と合同で実施する。			